

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：82610

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26861979

研究課題名(和文)在宅認知症高齢者の精神科病院入退院に関わる要因と地域生活支援方法に関する研究

研究課題名(英文)The factors of rehospitalization for psychiatric hospitals among community dwelling people with dementia and support system

研究代表者

加賀田 聡子(KAGATA, SATOKO)

国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局等・助教

研究者番号：60632429

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、認知症を介護する労働者を対象に、介護負担感と労働生産性との関連を明らかにするとともに、これらの関連に及ぼす仕事の特性の緩衝効果を検討することを目的とした。社会調査の登録モニターのうち、身内に「認知症」で介護を必要とし、自身がその人の介護を行っている労働者34,800名を対象にウェブ調査を実施し、先着で回答した379名を解析対象とした。本研究より、認知症を介護する労働者の介護負担感が高いほど、労働生産性が低下することが明らかとなった。また、同僚のサポートは、介護負担感と労働生産性との関連に対して、緩衝効果があることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study examined the association of caregivers' burden and work productivity loss among employees who provide care for a family member with dementia. Furthermore, whether the job characteristics components have a buffering effect was also studied. A cross-sectional survey was conducted among registered monitors of a survey company in Japan. A total of 34,800 monitors were invited to participate in the survey. However, owing to our financial constraints, the survey recruitment was stopped once the number of participants exceeded 379. Overall, 379 participants who provide care for a family member with dementia on top of having a job of their own answered the questionnaire. The present study suggests that higher caregivers' burden declines their work productivity, and co-workers' support, a job characteristics component, has a buffering effect on the association of caregivers' burden and work productivity loss among employees who provide care for a family member with dementia.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：介護者 認知症 労働者 介護負担感 労働生産性

### 1. 研究開始当初の背景

認知症を持つ人は、妄想、幻覚、うつ病などの精神のおよび行動障害を経験する。精神のおよび行動的障害は、認知症本人の QOL の低下や介護者の苦痛と関連し (Teri et al., 2000) 認知症の人だけでなく、介護者にとっても負担が大きい (Rabins, 1982; Finkel, 2000; Steinberg et al., 2003; Matsumoto 2007)。

認知症の介護者は、他の疾患の介護者と比較して、介護時間が長く、ADL や IADL の介助の程度や身体的・精神的ストレスが高く (Ory et al., 1999) 認知症を持つ人の精神のおよび行動的障害の程度が悪化するにつれて、ストレスや介護負担感が高くなることが示されている (Donaldson et al., 1998; Hokker, 2002; Papastavrou, 2007)。また、認知症を持つ人は、長期的に ADL の介助を必要とし、老衰の進行などや合併症により徐々に衰弱して死に至る (Glaser and Strauss, 1968; Lynn et al., 2001)。したがって、認知症の介護者は、ストレスや介護負担感が高い状態で、長期にわたり介護をしている可能性がある。

ここで、65 歳以上の人口の増加に伴い、介護を必要とする高齢者が増加している。一方で、生産年齢人口は減少を続け、少子高齢化が進行することが予測される。また、家族を介護する人の 3 割を 50-59 歳代が占め、全世代の中で最も多くを占めている。これらのことより、今後、減少する生産年齢人口の世代が、増加する高齢者を支えることが予測され、介護する労働者が増加する可能性がある。介護する労働者においては、仕事と介護の両立に伴う葛藤があり (Wang et al., 2010) 介護をしていない労働者と比較して健康障害 (例えば、抑うつ症状、不眠、頭痛) をきたしやすく、QOL が低下することが報告されている (Gupta et al., 2012; Jassem et al., 2015; Laks et al., 2015)。また、介護をしている労働者は、介護が原因で昇進の機会を逃すことや、欠勤や仕事を辞めることにつながることを示されている (Stnorne R, et al., 1987; Scharlach and Boyd, 1989; Scharlach et al., 1994; Gysels et al., 2009; Jassem et al., 2015; Lales et al., 2015; Gupta et al., 2015)。特に、認知症を介護している労働者は、介護していない労働者と比較して、労働生産性の低下が高いことが報告されている (Laks, 2015; Goren, 2016)。

介護する労働者の介護負担感と労働生産性に関する先行研究において、Mazanec ら (2011) は、がん患者を介護する 39 名の労働者を対象に、経済的問題、スケジュールの調整困難、健康問題による介護負担感と労働生産性の低下との間に正の関連があることを報告している。しかしながら、この研究は、対象者が少数人であり、介護負担感と労働生産性との関連を検討する際に、交絡要因とし

て想定される介護者の属性、介護の状況を調整していないため、正確な関連が検討できていない可能性がある。また、労働生産性は、仕事の特性である仕事のコントロール度や同僚のサポートなどの職場特性によって高められることから (Nagami, 2009) 介護する労働者においても、仕事の特性は、介護負担感と労働生産性との関連において緩衝効果をもたらす可能性があるかもしれない。さらに、がんとは異なり、終末期の過程が予想しにくい認知症の人を介護する労働者に、彼ら (Mazanec et al., 2011) の知見が適用できるかどうかは明らかではない。

### 2. 研究の目的

本研究では、認知症を介護する労働者を対象に、介護者・被介護者の属性、介護の状況を調整して介護負担感と労働生産性との関連を明らかにするとともに、これらの関連に及ぼす仕事の特性の緩衝効果を検討することを目的とした。

### 3. 研究の方法

#### (1) 対象者

社会調査の登録モニターのうち、身内に「認知症」で介護を必要とし、自身がその人の介護を行っている 20 歳以上の労働者 34,800 名を対象にウェブ調査を実施し (調査期間 2016 年 5 月) 先着で回答した 379 名 (男性 274 名、女性 105 名) を解析対象とした。対象者の平均年齢 ( $\pm$ 標準偏差) は、48.84 ( $\pm$ 11.37) 歳であった。

#### (2) 測定尺度

介護負担感は、Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版 (J-ZBI\_8) (Arai et al., 2003; Kumamoto et al., 2004) を用いて測定した。労働生産性は、WPAI-GH (Work Productivity Activity Impairment Questionnaire) (Reilly et al., 1993) を用いて測定した。本研究では、アブセンティーズム、プレゼンティーズムの 2 側面で評価した。また、介護者の属性 (性別、年齢、婚姻状況、教育年数) 被介護者の属性 (性別、併存症の有無) 介護の状況 (週当たりの介護時間、介護期間、介護の頻度、同居の状況、夜間の介護の有無) 仕事の特性 (仕事の要求度、仕事のコントロール度、上司のサポート、同僚のサポート、週当たりの勤務日数) を測定した。

#### (3) 統計解析

解析は、アブセンティーズム、プレゼンティーズムを従属変数とした階層的重回帰分析を実施した。説明変数は、介護負担感とし、調整変数は、介護者の属性 (性別、年齢、婚姻状況、教育年数) 被介護者の属性 (性別、併存症の有無) 介護の状況 (週当たりの介護時間、介護期間、介護の頻度、同居の状況、夜間の介護の有無) 仕事の特性 (仕

事の要求度、仕事のコントロール度、上司のサポート、同僚のサポート、週当たりの勤務日数)とした。変数の投入順番としては、最初に介護者の属性(年齢、性別、婚姻状況、教育年数)、次に介護の状況(週当たりの介護時間、介護期間、介護の頻度、同居の状態、夜間の介護の有無)および被介護者の属性(性別、併存症の有無)とし、さらに仕事の特性(仕事の要求度、仕事のコントロール度、上司のサポート、同僚のサポート、週当たりの勤務日数)を投入し、最後に介護負担感と仕事の特性の各項目との交互作用項を投入し、結果を検討した。

#### 4. 研究成果

階層的重回帰分析の結果、介護負担感とプレゼンティーズム( $\beta = 0.230, p < 0.001$ )との間に有意な正の関連が認められた。しかしながら、介護負担感とアブセンティーズム( $\beta = -0.012, p = 0.806$ )との間に関連は認められなかった。

さらに、介護負担感と各仕事の特性との交互作用を検討した結果、プレゼンティーズムに対する介護負担感×同僚サポートの有意な交互作用が認められた( $\beta = 0.216, p < 0.001$ )。そのため、単純傾斜の有意性を検討した結果、同僚のサポートが低い場合、介護負担感とプレゼンティーズムは有意な正の関連が認められた。一方で、同僚のサポートが高い場合、介護負担感とプレゼンティーズムは有意な関連は認められなかった。このことは、同僚のサポートは、介護負担感とプレゼンティーズムとの関連に対して、緩衝効果があることを示す。

本研究にはいくつかの限界がある。第一に、本研究は横断研究であり、介護負担感と労働生産性との関連における因果関係を推定することができない。したがって、今後は縦断研究を行う必要がある。次に、本研究のデータは、インターネット経由で収集され、回答者がモニターに登録していた人に限られる。インターネット利用者は、一般的に教育や社会経済的ステータスが一般の人よりも高いことが指摘されている(Smith et al., 1997)。また、先行研究と比較して、介護負担感とアブセンティーズムが比較的良かったことより(Kajiwara et al., 2015; Mazanenc et al., 2011; Jassem et al., 2015)、介護負担感とアブセンティーズムの低い人たちが本研究に参加しやすかった可能性がある。そのため、介護負担感とアブセンティーズムとの間に関連が認められなかったかもしれない。さらに、介護負担感と仕事の要求度がともに高く、プレゼンティーズムが著しかった人たちが調査に参加しておらず、交互作用が過小評価されている可能性がある。これらのことより、選択バイアスがあった可能性があるため、今後は、傾向スコア法によってWEB調査による補正を行う必要がある。最後に、階層的重回帰分析における自由度調整済決定

係数( $R^2$ )が必ずしも高いとは言えない。被介護者の認知症の程度や、介護者と被介護者との関係に関する情報も影響していた可能性がある。そのため、これらの変数を含めて、より適合度の高いモデルを構築したうえで介護負担感が労働生産性に及ぼす影響を再検討する必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

加賀田聡子, 柏木公一, 篠田和紀, 横山淳一, 訪問看護業務支援システム導入による訪問看護師の書類作成時間の変化と効率化についての認識に関する調査研究, 医療情報学, 査読有, 36 巻, 2016, 197-208

〔学会発表〕(計 3 件)

Kagata S, Kubota K, Association of Emotional Labor with Work Engagement and Stress Responses Among Japanese Hospital Nurses, International Council of Nurses 2015 Conference, 2015年6月20日, コエックスコンベンションセンター(韓国)

加賀田聡子, 窪田和巳, 認知症を持つ人を介護する労働者における介護負担感と労働生産性との関連, 2016年12月10日, 第36回日本看護科学学会学術集, 東京国際フォーラム(東京)

加賀田聡子, 窪田和巳, 井上彰臣, 認知症を持つ人を介護する労働者の介護負担感と睡眠障害との関連, 2017年3月17日, 第23回日本行動医学会学術総会, 沖縄科学技術大学院大学(沖縄)

〔図書〕

なし

〔産業財産権〕

出願状況

なし

取得状況

なし

〔その他〕

ホームページ等

なし

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

加賀田 聡子 (Satoko, Kagata)

国立看護大学校看護学部・助教  
研究者番号：60632429

(2) 研究協力者

窪田 和巳 (Kazumi, Kubota)  
横浜市立大学医学部・助教  
研究者番号：50728946